

Title	Society5.0 と人材育成
Author	岡田, 進一
Citation	Fabrica. 30 巻, p.1.
Issue Date	2018
ISSN	
Type	Others
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学工作技術センター
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

巻頭言

Society5.0 と人材育成

生活科学研究科長 岡田 進一（おかだしんいち）



所属：生活科学研究科 生活科学専攻

専門分野：社会福祉学（高齢者福祉学・地域ケア学）

趣味：英国式ガーデニング

内閣府は、Society5.0の社会づくりを目指し、政策形成を行おうとしています。Society5.0とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決の両立を目指す人間を中心とした社会のことです。具体的には、情報化社会の中で、すべての人とモノが有機的につながり、様々な知識や適切な情報が共有される社会であり、今までにない新たな考え方や技術革新がなされていく社会とされています。今後、人工知能(以下、「AI」とする)による情報統合や集約化が進み、そのことによる技術革新が促進され、社会が大きく変化していくと考えられます。そして、Society4.0（情報社会：現在の社会システム）から Society5.0 への移行を 20 年後に実現するため、政府において第 5 期科学技術基本計画が策定され、わが国が目指す未来社会像が示されました。

Society5.0 で議論されている AI による社会の変化は、人間の働き方を大きく変えていく可能性があると考えられます。例えば、定型化された予測可能な作業やコンピューターでのプログラム化が可能な作業は、AI を中心とするコンピューターによる制御で行われます。具体的な仕事としては、予約担当、案内業務、文章整理、銀行業務の一部などがあげられ、これらの仕事は、大部分がコンピューター制御でなされていきます。そして、AI による社会の変化で、人間の働く領域が限定され、創造的で高度な内容の職業が求められてくると予測できます。Society5.0 の社会で求められる職業人や教育研究者を育成していくためには、大学のあり方が非常に重要であり、高度な知識や技術を有し、創造性豊かな職業人や教育研究者を大学で育成していかなければなりません。大阪市立大学がその社会の要請に応えていくためにも、工作技術センターの今後の役割は、ますます大きくなると言えます。